



2018年6月27日(水)

報道関係各位

社会福祉法人中央共同募金会

高齢者に大切な腸の健康に関して、シリアルを持つ食物繊維が働きかける意義を伝えます

赤い羽根×日本ケロッグ「Breakfast For Better Days」プロジェクトで

シリアルの無償提供を通じて、高齢者の食習慣に関する意識改善をサポート

社会福祉法人中央共同募金会（会長：斎藤十朗）は、高齢者の孤立や孤食に伴う欠食と、それに伴う低栄養の問題に取り組むため、シリアル食品で知られる「日本ケロッグ合同会社（代表職務執行者社長：井上ゆかり）」と協働して、高齢者サロンでの活動、地域食堂への参加を通じて、不足しがちな栄養素を紹介しつつ、欠食しないことの大切さやその予防策を紹介するプログラムを実施することとなりました。

具体的には、日本ケロッグ合同会社より、年間約10万食分のシリアルの無償提供を3年間受け、地域の高齢者サークル、地域食堂、高齢者への配食サービス等に対して、栄養知識の涵養を目的としたパンフレットとともに配布することで、低栄養の予防策としてのシリアルの可能性を示しつつ、毎日の食習慣に対する意識改善サポートをめざす取り組みを行います。

具体的には、以下の3種類の活動に対して、1都4県（東京・埼玉・千葉・神奈川・群馬）を中心とした全国178か所（※）にシリアルとパンフレットの提供を行い、延べ12,000名のサービス対象者に対して啓発活動を行います。 ※2018年6月27日段階での予定です。変更の可能性もございます。

1:「届ける」／配食サービスを通じたシリアル提供（栄養サポート）



高齢者への配食サービス

内閣府が公表した「平成29年版高齢社会白書」によると、2015年時点で、国内では男性約192万人、女性約400万人の高齢者が一人暮らしをしていると言われています。一人暮らしの高齢者は、外出機会の減少や運動不足、食欲低下などから低栄養の悪循環に陥りやすいと指摘されています。こうした高齢者に向けて栄養価の高い食事を届ける「配食サービス」を展開する一般財団法人全国食支援活動協力会の協力を得、シリアルの無償提供を実施します。

2:「集う」／子ども食堂でのシリアル提供（栄養サポート+会食機会の提供）



子ども食堂

子どもの貧困や栄養課題に対する意識の高まりから、現在全国には子ども向けに無償もしくは安価な食事の支援を行う2,286カ所*もの「子ども食堂」が存在します。近年これらの「子ども食堂」の中には、コミュニティ機能を高めた「地域食堂」として、高齢者にも「会食」の機会を提供する施設が存在します。子どもたちと触れ合い「集う」なかで、高齢者の方々が栄養価の高い食事を楽しんでいただけるよう、このような機能を持つ「子ども食堂」に向けてシリアルの無償提供を行ってまいります。*「子ども食堂安心・安全向上委員会」調査、2018年3月時点

3:「知る」／老人クラブ・サロンでの提供（栄養サポート+会食機会の提供+食への意識向上）



老人クラブ・サロン

全国の共同募金会では、60歳以上のアクティブシニアを対象に全国で568万人以上*の会員数を抱える活動組織「老人クラブ」や高齢者の仲間づくりの場・サロンの運営助成を行っています。健康寿命延伸に向けさまざまな活動を行う同組織には、「食と栄養」に対しても高い関心を持つ多くの高齢者の方々が活動に参加しています。シリアルの無償提供に加えて老人クラブやサロンを舞台にした啓発イベント開催などを通じ、高齢者の方々が「食と栄養」に関する知識を「知る」ことで、さらなる健康長寿に向けた食習慣作りへとつながっていきます。

<本件に関するお問い合わせ先> 中央共同募金会 基金事業部 担当：小田、熊谷

TEL:03-3581-3846 / FAX:03-3581-5755 / E-mail:kikin@c.akaihane.or.jp